

令和2年度 横浜市民ギャラリー 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		R2年度計画		実施状況		評価		
I 文化事業目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
1 発信性のある自主事業を実施します。	1 自主企画展の年1回以上の開催	□新・今日の作家展2020 実施回数	年1回	年1回	「再生の空間」をテーマに、地主麻衣子と山口啓介の2作家の作品18点を展示。展示の様子や出品作家のトークなど記録映像を公開し、来館が困難な方も観覧会を楽しむことができるオンラインコンテンツも充実させました。	【成果】「再生の空間」をテーマに、コロナ禍の状況を重ね合わせて考えさせられる作品が好評を得ました。新型コロナウイルス感染拡大による先が見込めない中での自主企画展開催第1弾として、感染防止対策を十分に行い、来場者が安心して作品を観たり、関連イベントに参加したりすることができる環境づくりを徹底しました。来館が困難な方に向けて、トークイベントや出品作家によるギャラリートークを映像収録しオンライン公開するなど、コロナ禍でも多くの人が観覧会を楽しむ機会を提供しました。出品作家インタビューや作品図版、解説等を掲載した小冊子は、会場で無料配布およびホームページで公開し作家の活動を周知しました。また、会期終了後に、会場写真と関連イベントの対談2本を編集しまとめた記録集を作成し、展覧会アーカイブおよび作家資料の充実を図りました。 【課題】オンラインコンテンツの充実を図るとともに、コンテンツへのアクセス数を増やすための工夫が必要です。	【評価できる点】 ・「新・今日の作家展」及び「コレクション展」を通して、市民の皆さんに現代美術に触れる機会を提供したことに加え、各企画展において小冊子の作成・配布を行い、鑑賞時の理解を深める取組を評価します。コレクション展では昨年、新型コロナウイルスの影響により開催中止となったテーマを再開しました。リーフレット等の内容の充実をはかり、学芸員や鑑賞サポーターによる映像コンテンツや、出品作家のインタビューを公開するなどインターネットを通じた鑑賞環境の提供に努めた点を評価します。 ・「横浜子ども美術展」は、コロナ感染症拡大防止の観点から中止となりました。代替としてホームページで募集した作品を展示室に飾った様子を日々SNSで更新する企画を実施する等、コロナ禍での創作活動を支援、発表機会を創出した点を評価します。 ・年間を通し、新型コロナウイルス感染症の影響に対応し、内容の変更等を再検討しながら事業を実施しました。工夫を凝らし可能な範囲で市民の方の文化芸術活動を支援するために尽力した点を評価します。	
		□入場者数	4,000名	3,006名	-			コロナ禍により、目標入場者数は達成できませんでした。
		□関連企画 事業数	2事業	3事業	A			・9/26対談「電気まぶたの世代」地主麻衣子×中尾拓哉28名 ・10/3対談「二つの、3月11日／震災後とコロナ後の世界」山口啓介×徐京植32名 ・出品作家によるギャラリートーク(10/8～オンライン公開のみ)地主麻衣子トーク146名、山口啓介トーク226名
		□顧客満足度	4.0以上	4.5	A			
	2 収蔵作品を活用した展覧会の年1回以上の開催 コレクション展	□コレクション展2021 実施回数	年1回	年1回	B	所蔵作品より、港と水辺をテーマとした油彩、日本画、版画、写真等55点を展示。4セクションおよび特別展示を通じ紹介しました。また特別展示の日本画家・牛田雞村の全所蔵作品3点を同時に公開しました。今年度版リーフレットや映像コンテンツの作成など、内容の更なる充実を行いました。	【成果】昨年度会期初日しか開催できなかった展示内容を再実施しました。同内容の展示でしたが、作家インタビューは新たに実施し、学芸員による紹介動画や鑑賞サポーターの作品説明動画とともに会場とホームページで公開しました。リーフレットも作成し、昨年度の鑑賞サポーターが制作したマップや作家インタビュー、全出品作家の略歴を掲載する等、展示内容の充実をはかりました。関連事業も予定通り開催できました。 【課題】コロナ禍のために予定通りに実施できるか見通せない部分がありました。通常開催となった場合は多くの方に来場いただくため、より広く積極的に広報を展開する必要があります。	
		□入場者数	4,000名	2,799名	-	コロナ禍の影響と、土日の天候が悪く客足が伸びませんでした。		
		□関連企画 事業数	2事業	4事業 59名	A	・7-8月 前年度小冊子プレゼント応募者24名 ・3/6ワークショップ「木版画摺り体験 摺りであらわす水辺の情景」12名 ・3/14ハマキッズ・アートクラブ「横浜市民ギャラリーまるごと探検ツアー」8名 ・3/14鑑賞サポーターによるトーク15名		
		□顧客満足度	4.0以上	4.4	A			
	3 「今日の作家展」のWEB公開を目的としたアーカイブの実施	■「今日の作家展」の記録の整理	実施	実施	-	「今日の作家展」のアルバム整理を実施しました。	【成果】アルバム内の貴重な写真のデータ化をおこないました。また、「新・今日の作家展」出品作家2名のインタビューを実施しました。 【課題】アルバムのデータ化は作業を通常の業務内で、効率よく取り組む必要があります。	
		□関連作家等へのインタビュー 実施数	1名	2名	A	地主麻衣子、山口啓介の収録を実施。インタビュー映像をホームページで公開、小冊子にテキストを掲載しました。		
	4 収蔵作品等の積極的な公開とアーカイブの実施	□収蔵作品の作家へのインタビュー 実施数	1名	1名	B	版画家の柴田昌一氏のインタビューを実施し、コレクション展2021リーフレットへの書き起こし掲載、ならびに展覧会場とオンライン配信をおこないました。	【成果】収蔵作家は高齢の方が多く、インタビューの実施自体を検討した時期もありましたが、1名の収録ができました。 【課題】収録時期をコレクション展直前以外に実施するなど、柔軟に取り組むことも検討します。	
		■学芸員等を目指す学生を希望に応じて受入れ	受入数	なし	-	コロナ禍のため、実施・募集を見合わせました。		
	5 インターン制度の発足	□特別支援学校インターン生 受入数	4名	4名	B	清掃業務やビルメンテナンスの体験実習生として、2回、3名、学校生徒ではありませんが、若手成人の就労研修として1名、延べ25日間に渡って、合計4名を受け入れました。	【成果】清掃業務会社に就職を決めたいという気持ちとなった生徒さんもおられ、貴重な就業体験を提供できました。 【課題】コロナ禍のため、無理のない範囲での実施となります。	
		□「横浜芸術アクション事業」に寄与する事業の展開 事業数	1事業	1事業	B	8/29大人のためのアトリエ講座「レクチャー現代美術 ミスティックペーパー横浜をあらわす手法」はコロナ禍のため開催中止となりました。		
	6 横浜市の文化事業との積極的な連携	□「フォトヨコハマ2021」との連携 事業数	1事業	1事業	B	連携事業の開催の他に、民間画廊にフォト・ヨコハマへの参加呼びかけ、「画廊散歩」での写真展クローズアップ掲載、広告掲載も行うなど広報面でも協力しました。	【成果】コロナ禍の中、開催できたこと自体が貴重な機会となりました。	
		□コレクション展におけるサポーターの活用	年1回	年1回	B	育成研修を3回実施(12/19、2/6、3/7)し、鑑賞サポーター4名が活動しました。		
	7 鑑賞サポーターの育成及び活用	□コレクション展におけるサポーターの活用	年1回	年1回	B	育成研修を3回実施(12/19、2/6、3/7)し、鑑賞サポーター4名が活動しました。	【成果】昨年度準備しながら展覧会が初日で開催中止となつてしまい、発表の場をご用意できなかったコレクション展ボランティアの方々に、2年度は確実に成果発表の場を設けることができました。 【課題】コロナ禍の中、市内の感染状況を確認しつつ、どこまでできるか、など見極めるのに困難がありました。	

令和2年度 横浜市民ギャラリー 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		R2年度計画		実施状況		評価	
I 文化事業目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価
2 次代を担う子どもの創造性教育事業を実施します。	8 「横浜市こどもの美術展」の実施と新たな取組	□横浜市こどもの美術展2020 実施回数	年1回	代替事業 年2回	A	「横浜市こどもの美術展2020」は中止。代替事業としてオンライン企画①「お休み中の展示室に花を咲かせよう!」、②「横浜市こどもの美術展 未来へつなぐHistory&Memory」を実施しました。	(評価は前ページに記載)
		□入場者数	15,000名	代替事業 212名	-	①「お休み中の展示室に花を咲かせよう!」のべ204名、②「横浜市こどもの美術展 未来へつなぐHistory&Memory」メッセージ応募8名	
		□出品数	2,300点	代替事業 204点	-	①「お休み中の展示室に花を咲かせよう!」204点	
		□関連企画 事業数	1事業	中止	-		
		□顧客満足度	4.0以上	中止	-		
		■テーマ部門「スポーツ」部門	設置	中止	-		
		■自分でやってみる場、ワークショップスペースの設置	設置	中止	-		
	9 子どもの文化芸術の体験の場の提供と新たな取組 ハマキッズ・アートクラブ	□親子対象講座 実施回数	年3回	年1回	-	中止:2講座	
		□年長児対象講座 実施回数	年2回	年1回	-	中止:1講座	
		□小学校低学年対象講座 実施回数	年3回	年2回	-	中止:2講座	
		□小学校高学年対象講座 実施回数	年2回	年2回	B	中止:1講座	
		□参加者数	200名	62名	-	前期5講座は中止、後期5講座を定員を半数程度に減らして実施しました。	
	10 横浜市の文化事業との積極的な連携	□「ヨコハマトリエンナーレ2020」に寄与する事業の展開 事業数	1事業	中止	-	中止:1講座(「アートリンピック スポーツを等身大アートで表現しよう!」)	
		11 横浜美術館、横浜市民ギャラリーあざみ野の子ども事業との連携	□3館で事業連携し、講座内容や対象年齢を考慮した講座の開催や、申込受付方法等改善検討のための企画会議 実施回数	年1回	年5回	A	
	■3館での相互広報の体制作り 応募の落選者へ他館の講座を知らせる仕組みの継続		実施	実施	-	応募の落選者へ他館の講座を周知しました。	
12 親子講座の開催	□親子で造形を楽しむ講座を開催 実施回数	年3回	年2回	-	ハマキッズ・アートクラブ、コレクション展関連事業で親子対象講座に取り組みました。(中止:ハマキッズ・アートクラブ2講座、大人のためのアトリエ講座1講座)		
	13 横浜市芸術文化教育プラットフォーム『学校プログラム』への協力	■横浜市芸術文化教育プラットフォームへの協力 学校プログラムの実施 実施回数	年1回以上	年5回	A	全面協力し、2校全5回実施しました。(コロナの影響で1校中止)	
						【成果】新型コロナウイルス感染拡大防止のため、「横浜市こどもの美術展2020」は中止となりましたが、代替事業として二つのオンライン企画を実施しました。①「お休み中の展示室に花を咲かせよう!」では、参加者がつくった花の絵や工作の写真を募集し、それらを展示室に飾った様子を日々SNSで配信しました。コロナ禍での創作活動を支援、発表機会を創出し、1歳から93歳まで、日本各地や海外からの応募があり反響を得ました。②「横浜市こどもの美術展 未来へつなぐHistory&Memory」では、展示会の歴史とともに、応募者から寄せられた本展の思い出をホームページで公開することで、開催中止となっても本展からのメッセージを発信し、市民と繋がる機会としました。 【課題】次年度はコロナ禍においても展覧会を開催するための方策を十分に検討する必要があります。例えば出品を個人出品のみに限る、来場を予約制にし、必要に応じて来場人数の制限を設ける、関連事業は安全上問題のない内容に限定するなど、来場規模を大幅に縮小し統制できる体制が不可欠となる一方、子どもたちが出品・来場する楽しさを感じられる展覧会とする工夫が必要となります。 【成果】定員を通常時の半数程度に減らし、参加者同士の距離の確保、道具の個別用意など様々なコロナ対策を講じることで、参加者に安心してご参加いただき、開催を喜ぶ声が度々聞かれました。「横浜市民ギャラリーまるごと探検ツアー」を新規に実施し、鑑賞など多様な視点を含んだ内容で展開しました。 【課題】定員減により参加機会が少なくなるため、基礎的な内容の講座については複数回実施するなどの対応、また、幼児は自ら行動を律することが難しいため、子どものみでの参加から親子参加への変更が望ましいと考えます。 【成果】- 【課題】- 【成果】コロナ禍での事業実施等について、3館担当者によるオンラインでの情報交換や相談会を発案し、実施しました。 【課題】横浜美術館の休館による、当館事業の申込動向への影響の有無。 【成果】企画展関連イベントでもワークショップを実施し、小学生も親子で楽しめる機会を設けました。 【課題】コロナ禍での参加機会の確保。 【成果】コロナ禍でも可能な内容を検討し実施しました。上星川小学校個別級からは昨年に続き担当をご指名いただきました。 【課題】コロナの影響で来校が不可能な場合の対応。	

令和2年度 横浜市民ギャラリー 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		R2年度計画		実施状況		評価			
I 文化事業目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価		
3 市民やアーティストの創造活動支援を実施します。	14 利用団体等が行う活動の支援の充実 (1)利用団体への丁寧な相談・助言 (2)利用団体の展覧会についての積極的な広報	■事前打ち合わせの実施	実施	実施	-	展覧会開催1か月前に事前打ち合わせを実施したほか、随時相談に応じ、展覧会終了までサポートしました。利用団体の展覧会情報を市民ギャラリーの情報誌やホームページ上に掲載するとともにLOD化されている「ヨコハマ・アートナビ」へ情報提供を実施しました。	【成果】新型コロナウイルス感染拡大防止のためのガイドラインに沿った運営を行うため、ご利用者様と綿密な事前打ち合わせを行い、コロナ対応にご理解いただけるよう、丁寧なご案内に努めました。 【課題】感染症対策の最も主要なものは「密を避ける」ということですが、たくさんの方に作品を鑑賞いただく施設としては、本来あるべき姿とは逆のため、利用者様、ご来場者様の中には、ご理解いただくのが困難なケースが多々あります。	(評価は前ページに記載)	
		■<ヨコハマ・アートナビ><アートヨコハマ><横浜画廊散歩>での事前広報	実施	実施	-				
		■<ヨコハマ・アートナビ>への情報提供	実施	実施	-				
		□<アートヨコハマ> 発行回数	年3回	年3回	B	横浜市民ギャラリーの総合情報誌。自主事業、貸館事業の紹介。新規共催事業U35若手芸術家支援事業の紹介が加わりました。			
	□<横浜画廊散歩> 発行回数	年12回	年10回	B	市内約14の美術施設や画廊などの展覧会情報を毎月お届けしました。コロナウイルスの影響で5、6月号は休刊しました。				
	■ホームページでの展覧会の紹介 会期初日にホームページ上で公開	実施	実施	-	横浜市民ギャラリーを利用する全ての団体の展覧会期初日に会場の様子を撮影し、ホームページで公開するとともにSNSでも画像やハッシュタグを付ける等の工夫をしながら発信し、広報に協力しました。				
	15 文化芸術の体験の場としての講座等の実施 (1)文化芸術の体験の場としての講座等の実施 大人のためのアトリエ講座	□つくって学ぶ 講座数	年7講座	年4講座	-	つくって学ぶ ①「人体を描く-クロッキーからデッサンへ」中止 ②「はじめての油絵」中止 ③「人体を描く-ヌードと着衣」 ④「はじめての日本画 絹に描く-若冲の彩色に学ぶ」中止 ⑤「オープンスタジオ・人体クロッキー(着衣)Aコース」 ⑥「オープンスタジオ・人体クロッキー(着衣)Bコース」 ⑦「はじめての日本画 絹に描く-若冲の彩色に学ぶ」 ⑧横浜市民ギャラリー+横浜能楽堂連携企画「日本画(板絵)体験と横浜能楽堂見学」			【成果】 ・感染症対策をしながら、これまでの人気講座(クロッキー、デッサン)を継続しました。新たな試みとして横浜能楽堂との連携企画として、幅広い年齢層の参加者が見込める日本画講座を実施しました。また、ヨコハマトリエンナーレ開催年度につき、ヨコトリ関連講座も盛り込みました。これまでの参加者のニーズに応えるとともに、新しい企画を実施したことにより、若い世代から高齢者まで幅広い層の新規参加者を迎えることができました。 【課題】 横浜市民ギャラリーならではの企画を検討していくことが引き続き課題です。当館収蔵作品、地域連携、横浜の芸術文化に関わる企画など当館の特色を生かしながら、クロッキーや絵画制作など従来のニーズも大切にしていけるバランスが課題です。
		□きいて学ぶ 講座数	年3講座	年1講座	-	きいて学ぶ ①「親が知っておきたい〜紙あそび・お絵かきあそび〜」中止 ②「レクチャー現代美術「ミスティックペイ-横浜をあらわす手法-」中止 ③「写真が(魔術)だったころ-最初期の写真・ダゲレオタイプ(銀板写真)講座+映像詩『オシラ鏡』上映会」			
		□参加者数	200名	85名	-				
		□顧客満足度	4.0以上	4.5	A				
	(2)横浜市の文化芸術事業との関連講座の開催	□「ヨコハマトリエンナーレ2020」に寄与する事業の展開 事業数	1事業	1事業	B				
	16 美術情報の提供及び広報の充実 (1)横浜美術館との情報連携の強化	■広報連携の実施	実施	実施	-	「横浜画廊散歩」や「アートヨコハマ」では横浜美術館の事業をピックアップし、横浜市民ギャラリーあざみ野とはそれぞれの情報誌で相互に事業を紹介するなどして連携しました。			
■横浜市の文化政策上重要な事業について、映像情報等を交えたコーナーの設置と、広報する会期に合わせての紹介		実施	実施	-	エントランス・送迎車内モニターで横浜美術館、横浜市民ギャラリーあざみ野などの展覧会告知映像を放映し、併せてチラシを配架して広報しました。				
■空室情報の更新 実施状況		随時実施	随時実施	-	チラシと併用して随時更新しました。				
■会期初日での展覧会情報の紹介		実施	実施	-	利用団体の展示作業が終了し次第、会場の様子を撮影し、ホームページ上で紹介しました。また、SNSでも展覧会を紹介しました。				
□<アートヨコハマ>発行回数		年3回	年3回	B					
(2)ホームページ、SNS等の活用による充実タイムリーな情報発信	□<ヨコハマ・ギャラリーマップ> 発行回数	年1回	年1回	B					
	□<横浜画廊散歩> 発行回数	年12回	年10回	B					
	(3)広報誌の定期的な発行								
17 市民参画等の協働の推進による美術振興の担い手育成 (1)文化芸術の情報(=情報コーナー)における発信の工夫	■ポスター、チラシ、映像等による発信方法の工夫	実施	実施	-	展覧会の内容に合わせたチラシ配架、各地の公募展の案内を集めた「公募要項コーナー」、テーマ性を持たせたポスター掲出をするなど工夫しました。				
	■キャッチコピーのパナー掲示による集客の継続	実施	一部実施	-	「展覧会はどなたでも無料でご覧いただけます」というキャッチコピーは、コロナ禍の臨時休館中や入場制限中には相応しくないと考え、掲出を中断しました。				
(2)自主企画展におけるボランティアの活用	□ボランティアの活用 回数	年2回	年1回	-	「コレクション展2020」鑑賞サポーター(ボランティア)3名。「鑑賞サポーターによるトーク」(3/14)実施、「鑑賞サポーターのPICK UP!」映像制作。				
						【成果】昨年度準備しながら展覧会が初日で開催中止となってしまい、発表の場をご用意できなかったコレクション展ボランティアの方々に、2年度は確実に成果発表の場を設けることができました。 【課題】コロナ禍の中、市内の感染状況を確認しつつ、どこまでできるか、など見極めるのに困難がありました。			

令和2年度 横浜市民ギャラリー 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		R2年度計画		実施状況		評価		
I 文化事業目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
4 創造活動を介した人々のネットワークを形成します。	18 関連施設、民間ギャラリー、利用団体、ボランティア、アーティスト、学校教育間での相互交流の実施	■関連施設とのネットワーク インターネット情報、印刷物の相互配布	通年	実施	-		【成果】コロナ禍のなか、開催中止や休刊を決断しつつ、感染状況を見極めながら最善を尽くしました。 【課題】コロナ禍のため、より一層の丁寧な説明や、感染防止策の徹底が必要です。	(評価は前ページに記載)
		□民間ギャラリーとのネットワーク <横浜画廊散歩> 発行回数	年12回	年10回	B	コロナ禍のため、2か月分休刊となりました。		
		□民間ギャラリーとのネットワーク <ヨコハマギャラリーマップ> 発行回数	年1回	年1回	B			
		■民間ギャラリーとのネットワーク 展覧会のホームページへの掲載	掲載	実施	-	SNSでも発信しました。		
		■利用団体との交流 貸館利用打ち合わせの実施	通年	実施	-			
		□ボランティアの活用 横浜市こどもの美術館、コレクション展での募集	年2回	年1回	-	「コレクション展2020」で3名が活動しました。		
		□アーティストとのネットワーク 大人のためのアトリエ講座 実施事業数	全10講座	年5講座	-	コロナ禍のため、前期講座は全て開催中止となりました。		
		□アーティストとのネットワーク 展覧会 実施回数	年3回	年2回	-	コロナ禍のため、こどもの美術館は開催中止となりました。		
		□学校教育とのネットワーク アウトリーチ 実施回数	年1回	年5回	A	小学校アウトリーチを2校5日間実施しました。(1校中止)		

令和2年度 横浜市民ギャラリー 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		R2年度計画		実施状況		評価	
II 施設運営目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価
1 創造活動の発表の場を提供します。	公平・公正かつホスピタリティの高い貸出業務 (1)多くの市民に利用してもらえるような公平・公正で、透明性の高い施設貸出	□全展示室利用団体の抽選会 実施回数	年1回	年1回	感染防止をはかりながら実施しました。	【成果】 ・利用団体にコロナ感染防止策にご理解いただけるよう、丁寧な対応を心掛けました。 ・町内会・伊勢山皇大神宮・横浜成田山・横浜市従会館と情報交換を密に行いました。 ・伊勢山皇大神宮への当館チラシラックの設置、町内会掲示板へのチラシ掲示を通じ、自主事業の周知にご協力いただきました。 ・近隣の公共施設5館(県立音楽堂・県立図書館・県立青少年センター・横浜能楽堂・横浜市民ギャラリー)で構成される横浜・紅葉ヶ丘5館連携会議では、予定していた企画が中止となりましたが、年度末には印刷物「横浜・紅葉ヶ丘まいらんさんぽマップ」を完成させました 【課題】 地域文化施設のみならず、保育園や地域ケアプラザなど、連携先を広げる予定にしていたが、コロナ禍のため、今後の課題となりました。	【評価できる点】 ・きめ細やかなコロナ感染症対策を講じたうえで、展示室及びアトリエの施設提供をし、文化芸術活動の発表の場を提供し、創作活動の支援を行うことができました。施設利用上のお断りを作成し、貸出備品等の消毒の実施や、施設独自の看板等を館内に設置し注意喚起を行うなど利用者様が安心して利用できる環境づくりに努めました。 ・適切な人員配置により、安定した施設運営が継続された点を評価します。 ・収蔵作品の管理について、IPM手法を活用しながら実施し、収蔵庫を含めた館内全体の環境維持に努めたことを評価します。休館期間等を利用し、作品のクリーニングや状況確認を速やかに進めた点を評価します。 ・個人情報の適切な取り扱いや、人権尊重に係る研修の実施等、業務を適切に遂行したことを評価します。 ・SNSを活用し、イベントの開催や作品の紹介を積極的に行ったことを評価します。
		□1～5室利用団体の抽選会 実施回数	月1回	月1回			
		■抽選会後の空き室 先着順に受付	実施	実施			
		■直前での利用申込み等に、安全を確認した上での対応	実施	該当なし	直前での利用申し込みはありませんでした。		
		■利用団体からのアンケートを運営に活かすための職員内での情報共有	実施	実施			
		□利用団体からのアンケート 回収率	80%以上	100%	A		
		□施設スタッフ全員での定期ミーティング 開催回数	月1回	月1回	B		
		■展覧会開催・終了までの利用打ち合わせ・展示作業及び展覧会期間中の運営サポートや広報面での助言協力	実施	実施	利用者の経験等を鑑みながら、きめ細やかな運営サポートを行い、利用者が安心して展覧会が開催できるよう支援しました。		
		□アンケート満足度	4.0以上	4.3	B		
		■<アートヨコハマ>への開催情報の掲載	実施	実施			
	(3)利用団体の展覧会についての積極的な広報	■会場風景のホームページでの紹介、展覧会情報のFacebook・Twitterへの掲載	実施	実施	全ての展覧会の初日に会場風景を撮影し、ホームページで紹介しました。		
		■利用者ごとの柔軟な対応	実施	実施	展覧会をより円滑に充実して行えるよう、利用者ごとに柔軟に対応しました。		
		(4)エリアを通じた施設周知	■近隣5館連携など、近隣・コミュニティとのリレーションシップによりエリアを通じた施設周知を図るための近隣・コミュニティとの連絡会の開催	開催	実施	近隣施設と定期的な会議を開催しました。	
	(5)横浜市民ギャラリーあざみ野との連携による情報提供	■広報連携	実施	実施			
		■空き室情報の共有	実施	実施			
						【更なる取組を求める点】 ・収蔵作品について、適切かつ計画的な調査、修復、管理を引き続き適切に行うことを期待します。 ・収蔵作品のデータベースの更新等を継続的に実施してください。貴重な収蔵作品の活用と公開のため、引き続き画像データの掲載を推進することを期待します。 ・桜木町駅からの送迎サービスは定着が図られています。今後も継続してサービス提供をお願いします。	

令和2年度 横浜市民ギャラリー 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		R2年度計画		実施状況		評価		
II 施設運営目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
2 利用促進及び利用者サービスの向上及びアイデアノウハウの提案をします。	2 適切な施設情報発信等による認知度向上への取組強化	■施設情報の適切な発信による施設の認知度アップへの取組	実施	実施	-	ホームページやSNSで展覧会情報、自主事業情報、空き室状況、送迎車情報を発信し、施設の認知度アップに取り組みました。	【成果】度重なる新型コロナウイルス感染拡大防止のためのガイドライン変更なども、遅滞なくホームページで周知したことに加え、利用団体へ電話をかけ直接ご案内するなど、丁寧な情報発信に努めました。最新の展覧会開催状況について都度アナウンス内容を変更した留守番電話メッセージを用意し、時間外にかかってくる電話問い合わせに対しても対応できました。また発信力を高めるためにホームページ自体の内容の見直しを行い、3月末に新しいホームページに切り替わりました。 【課題】新しいホームページにおけるアーカイブページの構築・公開については引き続き取組中です。また、より使いやすいホームページを目指し他所も軽微な修正等を今後も引き続き行っていく必要があります。スマートフォン版の整備も引き続き行っていきます。	(評価は前ページに記載)
		■ホームページでの施設情報の周知	実施	実施	-	展示室・アトリエのバーチャルツアーをホームページに引き続き掲載したほか、新型コロナウイルス感染拡大防止ガイドラインや来館の際のお願いなど、コロナ禍で重要な施設情報については、動画を作成するなど、ホームページで分かりやすいように工夫しました。		
		■全展覧会のFacebook、Twitterでの紹介	実施	実施	-	全展覧会を画像やハッシュタグ付きでFacebook、twitterで紹介しました。		
		■利用案内による施設情報周知	実施	実施	-	利用の手引きを館内で配架しました。		
	3 空き室の有効利用等の利用促進のための取組の拡充	■積極的な施設貸出の営業	実施	実施	-	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、積極的な営業をするには至りませんでした。ガイドラインについての丁寧な説明をしたうえでのご利用をお勧めしました。		
		■ホームページでの空き室情報の公開	随時	実施	-	ホームページで空き室情報を随時アップし、最新の情報を提供しました。		
		■美術関係者・団体とのネットワーク拡大による個別に営業をかけられる体制の構築	実施	実施	-	これまでの施設運営で蓄積した美術関係者・団体とのネットワークを大切に運営につなげています。		
		■抽選に外れた全利用者への代替案の提案	実施	実施	-	抽選(利用調整)に外れた利用者に対しても、別日程での利用を提案するなど、施設の利用を促進するよう努めました。		
		■利用希望日より6か月を切った展示室空室の個人利用を可能とする運用	実施	実施	-	新規でのご利用実績はありませんでした。		
		■空室の個別の営業活動 横浜近郊の美術系大学への利用案内	実施	実施	-	各校の課外活動自粛要請等もあるなか、引き続き高校・大学の美術学科や書道科などの卒業制作展の発表の場としてご利用いただけました。		
		■アトリエに特化した広報物の作成 過去利用団体への利用案内	実施	実施	-	アトリエ利用促進の告知動画を引き続き館内エントランスモニターや送迎車内モニターで放映し、チラシも館内に配架するなどし、宣伝に努めました。		
	4 利用率の向上と目標指標の達成(令和2年度目標) 展示室:90% アトリエ:35%	■美術関連の学校、学部への周知・営業活動	実施	実施	-	希望者に「利用の手引き」を配布しました。		
		■美術に限らずジャンルを超えたアーティストの創造活動支援	実施	実施	-	TPAM(国際舞台芸術ミーティングin横浜)のフリンジ会場となりました。舞台公演の稽古場と本公演用に展示室をご利用いただくことで、美術とは異なるジャンルでの利用について協力しました。(オンライン配信で実施)		
		□来館者数	25万人	54,377人	-	年度始～6月14日までは新型コロナウイルス感染予防のため臨時休館となったこと、貸館展覧会の開催中止(利用キャンセル)が続いたため、目標達成には至りませんでした。		
	5 要望・苦情への適切な対応とその共有の実施	□利用率 展示室	91%	40%	-			
		□利用率 アトリエ	43%	36%	-			
		■職員ミーティングでのお客様への対応の確認	随時	実施	-			
		■お客様へのアンケートの実施と共有	随時	実施	-			
		■苦情・要望の分析と共有	随時	実施	-			
		■速やかな対応と再発防止のための情報共有 実	随時	実施	-			
6 市民の芸術活動の深化のための取組の実施	■横浜市との情報共有	随時	実施	-				
	■改善事例のホームページでの公開	随時	実施	-	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、都度変更となったガイドラインをはじめ、コロナ対応関連のご案内表記など、わかりやすい案内に努めました。また、新型コロナウイルス感染拡大防止の一助となるよう、自主事業企画の中でオンラインでもお楽しみいただけるコンテンツを増やしました。			
7 宮崎町親和会(町内会)や伊勢山皇大神宮、成田山横浜別院との協力体制構築	■市民が交流し、情報交換や知識収集のできる環境の整備 閲覧スペースの設置	通年	縮小して実施	-	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、エントランス内の机・椅子を最低限に減らし、美術図書コーナーを今年度はやむなく閉鎖しました。			
	■町の美化や町内行事の参加だけでなく、共に施設のPR等を行う	実施	実施	-				
	■宮崎町親和会での事業周知	通年	実施	-	町内会掲示板へのチラシ掲示により、自主事業の周知に通年でご協力いただきました。			
	■伊勢山皇大神宮の参拝客へのアピール	通年	実施	-	伊勢山皇大神宮に当館のチラシラックを設置していただき、ポスター掲示とともに参拝客へのアピールを通年行いました。			
8 送迎車の最適な運用の実施	■成田山横浜別院との情報交換	通年	実施	-				
	■桜木町駅と横浜市民ギャラリー間で(車椅子利用者等の利用にも配慮した)無料の送迎車の走行	実施	実施	-	新型コロナウイルス感染拡大防止の対策を十分にしたうえで、安心してご利用いただきました。			
	■展覧会に即した着実な運行	実施	実施	-				
	■館内、ホームページでの周知	実施	実施	-	ホームページで従来のお知らせ欄に加え、3月からは専用のバナーも設け、情報への到達がより容易となるようにしました。			
	■運行データの収集	実施	実施	-				

令和2年度 横浜市民ギャラリー 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		R2年度計画		実施状況		評価		
II 施設運営目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
3 市民ギャラリー所蔵作品の適切な収蔵、保管、調査、研究、発表、活用、展示をします。	9 収蔵作品の適切な収蔵、保管、調査、研究、発表、活用、展示の実施	■作品の定期的な点検確認	実施	実施	A	作品の点検を6日間にわたって実施しました。うち2日は燻蒸後未処置作品の抜粋調査でした。また、コレクション展出品作品を展示前後に確認しました。	【成果】現収蔵庫搬入前に燻蒸して以来、クリーニングや修復の対応をしていない作品の抜粋詳細調査をおこない、状態悪化が進行していることを確認することができました。一層の進行を食い止めるために、点検と同時に専門会社が額裏等のクリーニングを実施するとともに、12月・1月に可能な範囲で自前クリーニングをおこないました。また、昨年破損が発見された作品1点の修復、および燻蒸後未処置作品のクリーニング1点を実施しました。環境管理関係では、移転後初めて収蔵庫内の空気環境調査を冬季・夏季に実施し、状態の把握ができました。また、通常のIPM検査を着実に実施し、館内で共有することで環境向上の体制を維持しました。ポジフィルムが劣化した作品12点については、デジタルでの撮影を実施しました。ホームページ「収蔵作品検索ページ」掲載事項についてはホームページの情報も更新しました。ホームページ「今月の1点」では『横浜画廊散歩』発行後速やかに解説を掲載しました。	
		□作品の棚卸 実施回数	年1回	年2回	A	作品の棚卸を4日にわたり2回実施しました。		
		□館内の継続的なIPM点検による庫内環境の維持	隔月 年1回	・隔月 (4,6,8,10,12,2月) 自主検査、 ・8月全館点検 ・他、部分消毒、空気環境測定の実施 (9,12,1,2月)	A	隔月の職員によるIPM点検を4,6,8,10,12,2月に実施し、結果は都度専門会社が分析・同定しました。専門会社による全館点検は7/20に、B1パネル裏の消毒は6/15に実施しました。また週1回の庫内清掃を継続するとともに、庫内機器の点検を年4回実施しました。また、庫内空気環境測定を8,2月に実施しました。		
		■作品データの更新	実施	実施	-	作品点検時や調査を通じ明らかとなった情報は随時データベースやカード、ホームページの情報を更新しました。また作品図版の基盤としてきたポジフィルムの退色が激しいものより、新規撮影を実施し、図版データを更新しています(今年度撮影12点)。		
		■作品データベースの公開	実施	実施	-	ホームページ内において引き続き「収蔵作品検索ページ」を公開・更新しました。		
		□コレクション展 実施	1回	1回	B	前掲載済		
		□ホームページでの収蔵作品の紹介 紹介点数	12点	10点	B	ホームページでの収蔵作品紹介 10点 常盤とよ子《風呂婦り》、五島三十男《「Dialogue」The Memory of the Landscape. 三浦半島「子安の里」にて》、市川保道《緑映(白根不動)》、多田ヒロシ《青い目の人形》、川口栄《薔薇》、斎藤寿一《宙'88横浜の風》、佐藤努《山手風景》、渡辺豊重《それゆけモクモク》、加山四郎《港(船の絵)》、由木礼《MM21 Pier》 ※コロナ禍により『横浜画廊散歩』5,6月号の発行を見合わせのため、2点少なくなりました。		
	■作品修復・クリーニング 実施	実施	実施(全33点)	-	専門業者による修復を1点(日本画)、同クリーニング1点(水彩)、簡易クリーニング3点(油彩他)を実施しました。また、燻蒸後未処置作品のうち、修復緊急度の低い書作品28点の自前クリーニングを実施しました。また、1月に同カテゴリ作品の油彩・日本画・写真作品11点の額裏を自前クリーニングしました。			
	10 資料情報、作品の貸出、展示、修復等の履歴についてのデータベースの継続的な充実及び台帳の継続的な管理と収蔵作品の公開の実施	■資料情報、作品の貸出、展示、修復等の履歴についてのデータベースの継続的な更新	実施	実施	-	作品情報や著作権者情報等を随時更新しました。		【成果】作品調査時に判明した事項や著作権者情報等、作品データベースを随時更新しました。 【課題】作品の調査研究やデータベース・作品カード管理・更新、資料の整理や管理は地道な作業ですが、事業の繁忙期等は間が空きがちなため、年間を通じて作業をする体制づくりが必要です。
		□コレクション展 実施回数	1回	1回	B	前掲載済		
□ホームページでの収蔵作品の紹介 紹介点数		12点	10点	B	前掲載済			
4 運営組織の構築及び組織的な運営をします。	11 適切な運営組織体制と人材の配置	■人材配置 館長:1名、事業・運営管理責任者:1名、学芸・事業担当者:4名、施設運営担当者:4名、施設管理責任者:1名、施設管理副責任者:3名、施設管理担当者:1名、警備チーフ:1名、警備担当者:5名、清掃チーフ:1名、清掃担当者:3名、常勤アルバイト:2名、短期アルバイト:2名	配置	配置	-	館長:1名、事業・運営管理責任者:1名、学芸・事業担当者:4名、施設運営担当者:4名、施設管理責任者:1名、施設管理副責任者:3名、施設管理担当者:1名、警備チーフ:1名、警備担当:5名、清掃チーフ:1名、清掃担当:3名、常勤アルバイト:2名、短期アルバイト:2名	【成果】事業・管理面とも適切な人材配置ができ、確実な施設運営ができました。 【課題】初回の緊急事態宣言下では、臨時休館となったため職員の出勤を減らすことが出来ました。利用がある限り、シフトを薄くすることはできず、国が求める在宅勤務者数の割合での配置は困難です。	
		■勤務体制 ローテーション体制 主催事業や貸館内容に応じ、勤務体制を調整し、柔軟に対応する。 事務室スタッフ 原則常時5名以上 設備管理スタッフ 開館時:設備1名、警備2名、清掃2名 5名以上 閉館時:設備1名、警備2名	実施	実施	-	勤務体制 ローテーション体制 主催事業や貸館内容に応じ、勤務体制を調整し、柔軟に対応しました。 事務室スタッフ 原則常時5名以上 設備管理スタッフ 開館時:設備1名、警備2名、清掃2名 計5名以上配置しました。 閉館時:設備1名、警備2名 計3名以上配置しました。 ※緊急事態宣言下の臨時休館中や利用の少ない期間には在宅勤務も取り入れることで、最低限での配置とし、コロナ禍がおさまらない中、12月からは、以下での配置(事務室と設備管理合わせて6名)での配置(最低限)としました。 ・施設スタッフ 原則6名以上(内訳) ・事務室スタッフ 原則3名以上 ・設備管理スタッフ 開館時:設備1名、警備2名、清掃2名 5名以上		
	□定例会の実施 実施回数	月1回	月1回	B	5月、6月は密を避けるためメールでの開催			
12 組織内の情報共有及び主要人材の能力担保 組織的な施設運営のための職務の効率化や職員間の情報共有、業務改善のための会議を定期的に実施すると共に、職員の能力担保のためOJT及び定期的な研修等を実施	□研修 実施回数	年2回	年15回(延べ)	A		【成果】各部署でのミーティングや全体会議で、課題や取組について議論することで情報共有するほか、外部研修の内容を共有し、全スタッフの施設運営に対するスキルアップができました。 【課題】 ・人事異動や有期雇用職員の期限に伴う人材の確保が課題です。平素よりスタッフ間でのお客様対応等の情報共有や業務のローテーションで個々の経験値を高めることにより、スタッフのスキルの平準化を図り、常時高いレベルの利用者サービスを提供できる施設運営の保持に向け取り組みます。		

令和2年度 横浜市民ギャラリー 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		R2年度計画		実施状況			評価	
II 施設運営目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績		説明	自己評価	行政評価
5 本市の重要施策を踏まえ取り組みます。	個人情報保護についての取組 ・個人情報は規定及びマニュアル等に基づく適切な取り扱い ・具体的な業務についてルール化し、研修や定期的なミーティングによるスタッフの個人情報取扱いに対する意識の向上 ・メールやFAX、郵便物の送付時の個人情報漏えいの防止 ・個人情報の適切な管理の徹底	□過失による個人情報流出事故ゼロ	0件	0件	B	個人情報は施錠しての保管やパスワード等、規定やマニュアル等に基づいた取り扱いを行いました。コンプライアンス委員会を中心に研修や情報共有を実施しました。	【成果】 研修やミーティングを通じてコンプライアンスの取組や、危機管理についての知識や意識を共有し、職員全員で取り組むことができました。 【課題】 今年度もコンプライアンス事故等ありませんでしたが、気を緩めることなくコンプライアンスや危機管理に継続的に取り組みます。指定管理者事務局本部では、毎月1回コンプライアンス委員会を開き、コンプライアンスに関する具体の事例について検討されました。今後も継続してその検討内容を全スタッフに共有することで、日常の業務の危機管理に備えます。	(評価は前ページに記載)
	14 情報公開についての取組	■規定に基づく適切な対応 ■事業計画書及び事業報告書のホームページ(財団ホームページ)での公開	実施	実施	-			
	15 人権尊重についての取組	■全ての人に開かれた施設として人権に配慮した運営や接遇の実施 □横浜市主催の人権講習への職員の参加、職場内の研修についても人権尊重の意識を高める取り組みを実施。	実施	実施	-	研修への参加や事例の共有を通じて、人権に配慮した運営や接遇を実施しました。 横浜市主催の人権研修に参加した職員が講師役となり、職場内研修として人権尊重の意識を高める取組を実施しました。		
	16 環境への配慮に関する取組	■環境への負荷の低減を意識した省エネルギー化、省資源化	実施	実施	-	全職員が環境への負荷の低減を意識し、業務に支障のない範囲で省エネルギー化、省資源化に努めました。またデマンド監視装置を導入し、効率的な省エネを実現しました。		
		■「市役所ごみゼロ」「横浜市脱温暖化行動方針」「ヨコハマ3R(スリム)プラン」に基づく施設管理 □施設内での空気環境測定 実施回数	実施	実施	-			
17 市内中小企業優先発注についての取組	■物品購入・委託等の、特別な専門性が必要な理由がある場合を除く、横浜市の「物品・委託有資格者名簿」に登録された企業への発注	実施	実施	-	業務に支障がない限り、横浜市の「物品・委託有資格者名簿」での登録業者に委託・発注しました。複数の振込口座を持つ相手先には横浜市内に本支店を持つ口座を優先的に使用しました。			

令和2年度 横浜市民ギャラリー 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		R2年度計画		実施状況		評価	
Ⅲ維持管理目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価
1 施設、設備の維持保全及び管理をします。	1 PDCAサイクルに基づく、計画的で高水準な施設管理業務の実施	■施設・設備について高水準で効率的な定期点検及び日常点検の実施	実施	実施	-	施設の状態を常に清潔に保ち、利用者が快適に利用できるような管理を実施しました。展示室の壁面は定期的な専門施行業者によるメンテナンスの実施に加え、当館スタッフによるリタッチを実施し、経費節減をしつつ展示壁をより良い状態に保つよう努めました。	【成果】・共同事業体である強みを活かして、コロナ禍であっても、施設の安心、安全、快適環境を維持しました。アンケートでの快適評価は4.6と高い評価に繋がりました。 ・令和元年9月の台風の影響で、床上浸水した2階の展示室の床の張替工事や度重なる雨漏り対策としての北側壁面工事、汚水樹補修工事、エントランスの内壁タイル落下防止工事など、横浜市発注工事が複数入りましたが、いずれも安全に完了することができました。 【課題】・収蔵作品の適切な管理のためには、施設管理スタッフが施設内の状況を鑑みながらこまめに手動で空調機器をコントロールするなどの収蔵庫の温湿度管理と、専門家の助言や指導を受けたIPM(総合的有害生物管理)の継続的な実施が今後必要です。特に収蔵庫の温湿度管理については人的コントロールを行う必要があります。 ・令和元年9月の台風の影響で、床上浸水した2階の展示室の床の張替工事(横浜市発注工事)では、カビ対策が重要と考え、当館指定管理料から費用を捻出しました。今後も引き続き、横浜市との情報共有も密にしながら、施設の長寿命化を図ります。 ・展示壁面については、構造上、定期的な壁面メンテナンスは必須と考えます。次期指定管理での必要経費化の提案を検討しています。
		■施設(建築物)、設備及び備品の破損、不具合等の異常時の利用者の安全の確保、施設の運営に支障をきたすことのない適切な措置、速やかな報告の設備の過失による運転停止事故ゼロ	0件	0件	B		
	2 施設の安全・安心・快適環境維持と長寿命化対応の実施	■施設の状態を常に清潔に保ち、利用者が快適に利用できる管理の実施	実施	実施	-		
	□アンケートでの快適評価	4.0以上	4.6	A			
3 保守点検、備品管理、環境維持の実施	保守点検、備品管理、環境維持の実施	■設備管理業務日誌での日常点検の通年の記録と	実施	実施	-		
		■備品の適切かつ良好な状態での管理	実施	実施	-		
		■廃棄物の排出量を把握し、減量や分別・リサイクル	実施	実施	-		
		■空調管理の実施	室温20℃(±5℃) 湿度50%(±5%)	一部目標値外	-		
4 収蔵庫の適切な管理の実施	収蔵庫の適切な管理の実施	■収蔵庫内及び収蔵庫周辺の定期的な清掃	週1回 適宜	週1回 適宜	B		
		■定期的な点検、横浜市での施設管理におけるガイドラインに沿った点検・報告等の実施による修繕必要箇所の早期発見・対応	実施	実施	-		
2 小破修繕へ取組みます。	効果的な小破修繕への取組	■施設管理に対する全職員の意識の向上	実施	実施	-		
		■全職員及び横浜市との情報の共有	実施	実施	-		
		■全修繕履歴の年度毎のデータ化	実施	実施	-		
6 保守管理の専門技術を活かした、迅速かつ臨機応変な突発修繕への対応	保守管理の専門技術を活かした、突発修繕への速やかな対応	■保守管理の専門技術を活かした、突発修繕への速やかな対応	実施	実施	-		
		■定期的な点検や日常点検、横浜市での施設管理におけるガイドラインに沿った点検・報告等の実施による修繕必要箇所の早期発見・対応	実施	実施	-		
7 多角的視点からの小破修繕箇所の早期発見	多角的視点からの小破修繕箇所の早期発見	■定期点検や日常点検、横浜市での施設管理におけるガイドラインに沿った点検・報告等の実施による修繕必要箇所の早期発見・対応	実施	実施	-		
3 事故防止体制・緊急時(防犯)の対応・感染症対策等衛生管理を行います。	事故防止体制・緊急時のための方針と対策 (1)警備スタッフ及び機械警備による切れ目のない万全の警備体制の実施	■警備専門スタッフと機械警備による万全の警備体制の実施	実施	実施	-		
		■業務の基準に基づく警備の実施と利用者の入退出の適切な管理	実施	実施	-		
		□過失による事故ゼロ	0件	0件	B		
		■業務を遂行する上での、定められた関連法規等の遵守	実施	実施	-		
	8 (3)警備計画及び報告書の作成と適切な報告の実施	(3)警備計画及び報告書の作成と適切な報告の実施	■警備計画書及び巡回警備計画書の作成とそれに基づく警備業務	実施	実施	-	
			■警備スタッフによる警備及び機械警備の業務日誌の作成と共有	実施	実施	-	
	(4)施設内外への防犯対策の実施	(4)施設内外への防犯対策の実施	■警備スタッフによる施設の駐車場だけではなく周辺道路への防犯対策の実施	実施	実施	-	
			■救急セットやAEDの完備	実施	実施	-	
	(5)救急セットやAED等の設置と十分な研修の実施	(5)救急セットやAED等の設置と十分な研修の実施	■AED取扱い研修未受講の新配属スタッフ等対象に実施	実施	実施	-	
			■毎日のAEDのセルフメンテナンスチェックの結果	実施	実施	-	
9 インフルエンザ等の感染症対策	インフルエンザ等の感染症対策	■職員による施設内巡回による衛生管理の徹底	実施	実施	-		
		■インフルエンザ等の流行時の予防のための取組み	実施	実施	-		
		■インフルエンザ等の流行時の予防のための取組み 消毒剤の設置	設置	実施	-		
		■鳥インフルエンザへの留意と異常時の迅速な対応	実施	実施	-		
4 防災に関し取組みます。	10 緊急時の連絡体制・役割分担	■汚物の処理にあたっての準備及び処理時の手袋・マスクの装着の徹底	実施	実施	-		
		■緊急時の対応の明確化	実施	実施	-		
	11 平常時の防災対策	平常時の防災対策	■緊急連絡網の作成と市への提出	実施	実施	-	
			■関連法規に基づいた届出等の実施	実施	実施	-	
			■日頃からの危機意識の向上	実施	実施	-	
			■全スタッフへ対象の訓練の実施	実施	実施	-	
	12 災害発生時の取組	災害発生時の取組	□危機管理マニュアルに基づくスタッフの消防訓練実施回数	年2回	年6回	A	
			■自衛防災組織の設置と継続的な防災訓練の実施	実施	実施	-	
	13 帰宅困難者一時滞在施設としての準備等の災害時の取組	帰宅困難者一時滞在施設としての準備等の災害時の取組	■町内会と防災関連の協議を行い、地域社会での責務を果たす	実施	実施	-	
			■関連法令、条例、業務の基準に基づく来館者の安全確保を最優先とした適切な対応	実施	実施	-	
13 帰宅困難者一時滞在施設としての準備等の災害時の取組	帰宅困難者一時滞在施設としての準備等の災害時の取組	■情報管理の一元化及び適切な報告	実施	実施	-		
		■二次災害の発生防止措置の実施と、横浜市等との協議の上での適切な対応	実施	実施	-		
		■非常用簡易トイレ、飲料水、非常食、毛布等の備	実施	実施	-		
		■適切な情報収集による来館者や職員、施設の安全確保のための取組	実施	実施	-		
13 帰宅困難者一時滞在施設としての準備等の災害時の取組	帰宅困難者一時滞在施設としての準備等の災害時の取組	■災害鎮静後の危機管理マニュアルに基づく適切な対応と原状復旧体制の確保のための取組	実施	実施	-		
		■汚物の処理にあたっての準備及び処理時の手袋・マスクの装着の徹底	実施	実施	-		

令和2年度 横浜市民ギャラリー 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		R2年度計画		実施状況		評価		
IV収支	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
1 収支の適切な構造及び収支バランス	1	(収支予算書及び報告書) ■適切な収支構造、収支バランスの確保	実施	実施	<p>新型コロナウイルス感染症防止対策のために、貸館利用収入が大きく落ち込みました。自主事業についても前期は大幅に企画を変更するか、開催中止としたため、自主事業収入も大きく減りました。広告料収入は好調でしたが、助成金獲得には至らず、横浜市からの支援金・負担金113万円を加えても、全体の収入合計は、目標値よりも843万円減額となりました。</p> <p>支出に関しては、新型コロナウイルス感染症拡大防止のためや、経年劣化等による備品類の新規購入等で事務費の支出が増加しましたが、自主事業費、光熱水費支出が抑えられたこと、人件費が職員の配置の関係で予算値を下回ったことから、支出全体では、目標値よりも953万円の削減。最終的な収支は109万円の黒字となりました。</p>	【成果】 ・新型コロナウイルス感染症拡大のために、収支の先行きが見通せず、かじ取りに苦労しましたが、赤字決算を避けることができました。	【評価できる点】 ・自主事業の企画にあたってはコロナ感染症対策の影響により当初の計画から変更を余儀無くされました。また、事業収入についても見通しのつかない時期が長くありました。そのような状況においても、収支バランスの調整に努めた点を評価します。	
2 指定管理料のみに依存しない収入構造	2 利用率の向上による利用料金収入の増加への取組	□利用料金収入(駐車場を除く)	1,100万円	441万円	<p>新型コロナウイルス感染症拡大のため、キャンセルが相次いだこと、12月中旬からの約1か月間は、2階展示室床修繕工事のため展示室の貸出ができなくなったことで、利用料金収入の最終的な実績値は目標額を大きく下回りました。</p>	【成果】 新しい広告スペースを生み出すなど工夫を行うことで、コロナ禍にあっても広告料収入を増やすことができました。しかしながら、広告料収入以外は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、目標を下回りました。	【更なる取組を期待する点】 ・今後も文化芸術の拠点として、質の高い自主事業展開を継続するために、収支バランスにも配慮した企画立案及び管理業務を行ってください。	
	3 周知等による駐車場の利用料金収入の増加への取組	□駐車場利用料金収入	168万円	91万円	<p>新型コロナウイルス感染症拡大のため、利用が激減したため、駐車場利用も減りました。</p>			
	4 助成金・協賛金(広告料収入)の獲得	□助成金・協賛金	□広告料	130万円	0円			<p>公益財団法人アサヒグループ芸術文化財団、公益財団法人野村財団、独立行政法人日本芸術文化振興会への申請の結果、不採択</p>
			□広告料	60万円	62万円			<p>「横浜画廊散歩」は2ヶ月分を休刊とした分が減収となりましたが、新しい広告スペースを生み出す工夫を行ったこと、また多くの広告主に継続して掲載希望をしていただいたことで、目標を上回る広告料収入となりました。</p>
	5 周知等による講座料収入の増加への取組 周知等により事業参加者数の増加を目指す	□大人のアトリエ講座 講座料収入 □ハマキッズアートクラブ 講座料収入	122万	35万円	<p>前期6講座は中止、後期5講座を定員を半数程度に減らして実施。</p>			
			30万	7万円	<p>前期5講座は中止、後期5講座を定員を半数程度に減らして実施。</p>			
6 自動販売機の販売収入の増加への取組	□自動販売機販売収入額	35万円	5万円	<p>展示会の開催中止による来館者数の激減のため、来館者層を予測しながら販売内容を決定しましたが、目標額は達成できませんでした。</p>				
3 経費削減等効率的運営の努力	7 発注及び事務の効率化等による経費削減	■横浜市に準じた経理規程に基づいた、支出を最小限に抑える取組	実施	実施	-	【成果】 事務の効率化により超過勤務を抑制しつつ、コロナ禍にあっても適切な施設及び設備管理を実行するとともに、経費削減に努めることができました。	【課題】 天候等の外的要因に大きく左右されやすい光熱水費の執行管理が課題。さらにコロナ禍により、換気を充分に行う必要があることで、より一層外的要因に左右されがちとなる中、適切な管理を行っていく必要があります。	
		■事務用品の再利用の推進	実施	実施	-			
		■広報物の発送の効率化による経費の削減	実施	実施	-			
		■計画的な経理処理による手数料の削減	実施	実施	-			
	8 適切な施設及び設備管理による経費削減	■施設・設備の効率的な運用による経費削減	実施	実施	-			
		■施設・設備の現状把握と修繕計画による支出の平準化と修繕費の抑制	実施	実施	-			
	9 職員の業務の効率化による経費削減	■早期の修繕実施による長期における経費削減	実施	実施	-			
		■職員の業務の効率化への意識を統一するための職員会議や面談 ■業務の発注へのコスト意識及び職員の超過勤務削減による経費削減	実施	実施	-			
	10 展示会や講座等の事業にかかる経費削減	■作家や講師との協働での事業企画による経費削減	実施	実施	<p>作家や講師に事業の趣旨や意義を伝え共感していただくことで、経費の工夫など経済的にも協力していただきました。また講座に必要な備品を当財団内から借用したり、横浜美術館休館に伴い不要となった講座材料を当館で再利用したりするなど経費削減に努めました。</p>			
		■企業からの現物協賛の受入れ等による経費削減	実施	依頼は実施	<p>企業に協賛依頼を行いました。新型コロナウイルス感染症拡大防止のために、展示会の中止や、事業内容の変更があったため、実現には至りませんでした。</p>			

評価項目		R2年度計画		実施状況		評価	
その他	特記(提案事項要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価
	1						

令和2年度 横浜市民ギャラリー 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		R2年度計画	実施状況	評価	
総括	特記(提案事項要旨)	達成指標	説明	自己評価	行政評価
1				<p>第3期指定管理期間の5年目にあたる令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の中の船出となりました。管理運営や事業の経験と蓄積を活かしながら、「文化芸術活動拠点としての機能の強化」「市民文化活動や創造活動に対する支援の強化」「次世代を担う人材の育成の強化」といった3つの基本方針に沿って、これまで同様に取り組みながらも、新型コロナウイルスという誰にとっても未知の脅威に相対し、試行錯誤しつつ、安心安全を第一に運営を行いました。</p> <p>自主事業では、7月の展覧会をオンラインを介した別の展覧会を実施いたしました。年度後半からは、感染予防に最大限の注意を払いながら予定していた事業を、内容や定員などを見直しつつ実施しました。これまで通りの盛況さを取り戻すことはできませんでしたが、社会では自粛や家から外出しないことを求められる中、充分とは言えないながらも、横浜市民ギャラリーにお出かけいただいた方はもとより、外出できない方に対しても、文化芸術に触れることで心の栄養が得られる機会を提供できたのではないかと考えます。</p> <p>貸館利用については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、利用団体にご理解とご協力を求め、これまで以上に丁寧な対応を心がけました。</p> <p>インターンやボランティアといった、これまで力を入れてきた次世代育成のための取組は、4名の就業実習生受け入れ以外は全て新型コロナウイルス感染拡大防止のために実施することができませんでした。</p> <p>ホームページのリニューアルにも取組み、利便性を向上させました。</p> <p>設備面では、新型コロナウイルス感染拡大防止のために、換気などが必要で、より一層外気温湿度に注意を払う管理が求められた1年でした。また、令和元年9月の台風の影響で、床上浸水した2階の展示室の床の張替工事や度重なる雨漏り対策としての北側壁面工事、汚水樹補修工事、エントランスの内壁タイル落下防止工事など、横浜市発注工事が複数入りましたが、いずれも安全に完了することができました。</p> <p>今だ収束の兆しの見えない新型コロナウイルス禍において、今後も横浜市と協議しつつ、安全な運営に努めてまいります。</p>	<p>・コロナ感染症対策の影響により未経験の状況のなか、消毒等の施設管理及び事業に係る様々な調整について、丁寧に対応しました。</p> <p>・コロナ感染症の影響下において、オンライン配信を利用した企画やSNS等での情報発信などの充実が求められています。引き続き可能な範囲で検討を進めることを期待します。</p> <p>・収蔵作品の状況確認や、データベースの情報更新、施設内の小破修繕等を適切に進めることを期待します。</p>